

オバマ米国大統領 記者会見（2011年3月17日）

“We will Stand with the People of Japan”

「我々は日本の人々を支持します」

「こんにちは、皆さん。この数日の間に米国民は日本における事態に心を痛め、そして大変心配しております。

想像を絶する地震と津波がありました。世界中で最も親しい友邦であり同盟国の一つである国に想像を絶する死者と破壊をもたらしました。そしてこの甚大な自然災害は、日本国民に平和的なエネルギーを供給する原子炉に衝撃を与え、更なる大惨事を引き起こしています。

本日は、米国民の皆様に最新の情報を提供したいと思います。それらは、我々が知り得ている日本の現状について、我々が米国市民を守る為に、そして我が国の原子力エネルギーの安全性を確保するために何を行っているかについて、そして今回の災害の拡大を食いとめ、回復、再建しようとしている日本の人々を我々がどのように救援しているかについてです。

最初に、我々は状況を注意深く監視し、被害をこうむるかもしれない米国市民を守るために活用可能なすべての手段を講じております。日本の関係者が英雄的な作業を続けておりますが、福島第一原発の原子炉の損傷は近隣の人々に重大な危険をもたらしていることを承知しています。それが昨日、原子力発電所の50マイル以内の米国市民に避難を要請した理由です。この決定は慎重な科学的評価及び米国内、或いは世界中どこにおいても米国市民を安全に守るために使われているガイドライン（指針）に基づいています。

半径50マイルを超える地域では、現在のところ避難を必要とする危険はありません。しかし我々は、もし事態が極端に悪化した場合に放射能の危険にさらされる米国民を避難させるべく、慎重かつ用心深く対策を講じる責任があります。それが、昨晩私が日本北東部で勤務している米国公務員の家族及び関係者の自主的な離日を承認した理由です。

日本にいるすべての米国市民は注意深く状況の推移を見守り、そして米国及び日本政府のガイダンスに従うことを続けてください。そして支援を必要とする人々は米国大使館、領事館にご連絡ください。大使館、領事館は業務を続けております。

第二に、私は多くの米国民が米国内への潜在的リスクについて心配されていることを承知しております。これに対して、私は明確に申し上げたい。西沿岸地域、ハワイ、アラスカ、そして太平洋の米国領のどの米国領とも危害を与えるような放射能レベルに達することは予測しておりません。繰り返して申し上げます。危害を与えるような放射能レベルに西沿岸地域、ハワイ、アラスカ、又は太平洋米国領がなることは予想しておりません。これは原子力規制委員会及びその他の専門家の判断です。

更に、アメリカ疾病予防管理センター及び公衆衛生の専門家は、米国在住の人々が通知されている以上の予防的対策を講じることを推奨しておりません。（そして今後の事態の進展に応じて）我々は米国民に最新の情報を提供しつづけます。なぜならば、私が米国大統領として知っていることを米国民も知っていなければならぬと信ずるからです。

ここ国内において、原子力発電は、風力や太陽光のような再生エネルギー資源、ナチュラルガス、そしてクリーン石炭と共に、我が国のエネルギーの将来の重要な一部です。我が国の原子力発電所は、徹底的な調査を受け、そしていかなる偶発な出来事に対しても安全であることを宣言しました。しかし我々は、日本におけるこのような危機を見る時、我々はこの出来事から学び、我が国民の安全と保障を確保する為の教訓を引き出す責任があります。

それが、私が日本において明らかになった自然災害の観点から、原子力規制委員会に対して、国内の原子力発電所の安全性を包括的に見直すよう求めた理由です。

最後に、我々は、今回の途方もない挑戦に晒されている同盟国日本を積極的に支援しています。捜索・救助隊は復旧作業を助ける為に日本の現場にいます。災害支援・応答隊は地震及び津波の余波に立ち向かう為に作業しています。何十年もの間、日本の安全保障の為に支援してきた米軍は24時間ぶっ通しで働いています。

今まで、復旧作業を支援するために何百回もの空輸を行い、そして数千ポンドの重量の食料と水を配布しました。我々は、同時に日本の原子炉の損傷の拡大を食いとめるための支援に、我が国の代表的専門家を派遣しました。我々は日本の人々と専門的知識、機器及び技術を分かち合うことによって、現場の勇気ある作業員が米国のチームワークと支援の恩恵を得られます。

そして米国民は、同時に同情の気持ちを持っています。多くは進行中の救援作業を広い心を持って支持しています。赤十字社は、家を失った人々が直ちに必要な物資を提供する為に支援しています。どなたでも手を貸そうという方がおられたら「usaid.gov」にアクセス

スすることをおすすめします。」どのようにすれば役に立てるのかも「usaid.gov」をご覧ください。

日本国民はこの大きな試練と悲しみの時において決して1人ではないことを、昨晩菅首相に申し上げました。そして今日もここワシントンの日本大使館においても再び申し上げました。日本国民は元気を取り戻した時に、太平洋を越えて米国から差しのべられた支援の手に気がつくでしょう。どうあろうと、我々は半世紀以上前に結ばれ、共存・共栄と民主主義価値観によって絆が強まった同盟国です。米国民は家族的繋がり、文化的繋がり、経済的繋がりを共有しています。米軍は日本の海岸を守る為に従事しました。そして米国民は日本の市町村で機会と友情を見出しました。

中でも、私は、日本の人々の強さと精神力によって日本が回復し、再建されることを確信しております。この数日間において、人々は他の人々のために自分たちの家を開放しました。限りある食料と水を分かち合いました。人々は避難場所を設営し、無料の診療を提供し、そして最も傷つきやすい市民の世話をしました。一人の男性がそれを簡単に「それが日本人なのです。困った時はお互い様です」と説明しました。

このような困難な時に、それにもかかわらず、将来への希望が存在します。津波ですべての家が流されてしまった小さな町において、緊急作業員達が両親の腕からはぎとられ、がれきの中で数日間取り残された4ヶ月の赤ちゃんを救助しました。水とがれきの中で、なぜ彼女が助かったのかを説明できる人はいません。人間の出来事には神秘的なことがあります。

経済の回復と世界的激変の最中に、このような災害は、我々が分かち合う共通の人間性について想起させてくれます。我々はそれを福島原発で自らの生命をかけて対応している人々の中に見出します。我々はそれを70カ国から日本へ即刻送り込まれた救援の手を通して示すことができます。そして我々は、それをがれきの中から奇跡的に引き出された子供の泣き声に聞くことができます。

これから数日、我々はアメリカ市民の安全とエネルギー資源の安全を確保する為にあらゆることを行い続けます。そして、日本の人々が危機の拡大を阻止し、この苦難から回復し、そして偉大な国家を再建する時、我々は日本の人々とともにいるでしょう。」

(訳及び下線：植田 和男)